

「tree house project 木の子」

tree house project 木の子
(代表 後藤 彩音)

1. 団体説明

木の子は、①地域の自然（里山）を利用した子どもたちや大人のための環境教育・学習や地域交流の場の創造、②環境人間学部でさまざまな専門を学んでいる大学生が、相互協力して実践する地域貢献の場の創造、③建築や都市計画を学んでいる学生の実践の場、という三点を活動理念としている。また、ツリーハウスを里山のシンボルとして「地域」「学生」「里山」をつなげ、地域を盛り上げていきたいという思いで環境教育やイベント、ツリーハウス・遊具の製作を行っている。

2. 2019年度の活動

表 2019年度の活動	
2月	おままごとセット、ベンチ完成
3月	アスレチック班、ツリーハウス班発足
5月	ツリーハウス班、里山計画班に改名
6月	春イベント牛乳パックやフェルトを用いた工作
7月	敷地整備、安全ルート確認
8月	1年生による建築班発足
9月	夏イベント（空き缶、段ボールを使った遊び）
10月	建築班プランニング
12月	冬イベント（落ち葉でリース作り）
2月	里山緑化イベント（予定）

今年度の活動で印象に残っているのは、設計することの難しさ・楽しさと、イベントを実行する上での準備の大切さである。

前者について、ただ自分たちが作りたいものを作るのではなく、里山に遊びに来てくれる子どもたちのため、どうしたら楽しく安全に、そして自然と触れ合いながら遊ぶことができるのかということに多くの試行錯誤を重ねた。誰かのためにモノづくりをすることのすばらしさを日々体感することができている。

また後者について、今後の木の子の活動をより外部に発信していくことで、多くの人に認知してもらいより一層活発化させていくという目標をチーム全体で掲げている。



写真1. ツリーハウス—
号機（所属学生撮影）

木の子の活動は、設計などの実践だけでなく、仲間や地域の人々との関係を築くことで成り立っており卒業後の生活にも大いに生かすことができると確信している。

3. 活動を通して学んでいること

私たちはツリーハウスや遊具などを設計・作成する建築班と、小学生を対象としたイベントを企画・運営する環境教育班とに分かれて活動している。

建築班では学生でデザイン案を出し合い、顧問教員の指導の下、施工するうえで必要な情報収集をし、図面を仕上げる。そして、実際に作り上げていく。製作品のデザインだけではなく、作業工程や施工に携われるという点は、貴重な経験で大変勉強になっている。

環境教育班では、里山が子どもたちや大人のための環境教育・学習や地域交流の場となり、地域の子どもたちが安全に楽しめる場となることを目的に、試行錯誤を繰り返してイベントの企画を行う。また、スケジュールの管理やイベント開催に必要な準備を行っていく。準備の段階から、運営までの全ての過程に触れて、イベントへの実践力を身につけている。

4. 今後の展望

様々な世代の人が、里山という同じ空間を共有するひとときを過ごすことでつながることを目指していく。

【謝辞】

活動にあたり、熊谷哲氏（県立大名誉教授・NPO 法人はりま里山研究所所長）、世良田ひとみさん（親子育てメンター）および地域の方々に大変お世話になっている。心より感謝申し上げます。



写真2 夏イベント（所属学生撮影）